

道の駅「あいの土山」の防災機能強化について

◆道の駅の防災機能について

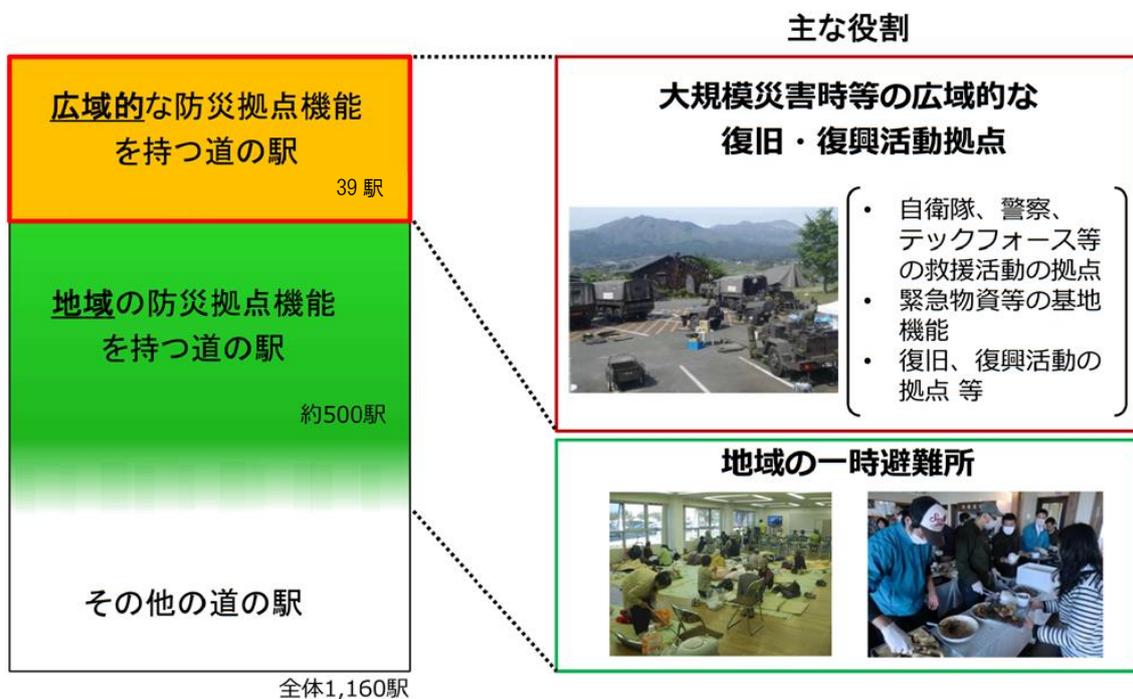
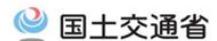
近年、異常気象等により全国各地で大規模災害や局地的な災害が増加しています。

道の駅においては、道路利用者の一時的避難や自衛隊の前線基地、支援物資の集配基地としての活用等、広域的な防災拠点として、その重要性が叫ばれています。

これらのことから、国においても「防災道の駅」の認定を進め、全国各地の道の駅の防災機能の強化を支援しています。

◆防災道の駅について

「防災道の駅」のイメージ



防災道の駅の認定要件について

1. **都道府県**が策定する**広域的な防災計画（地域防災計画もしくは受援計画）**及び**新広域道路交通計画**（今年度、国交省と都道府県で策定予定）に広域的な防災拠点として位置づけられていること。
2. 災害時に求められる**機能**に応じて、以下に示す**施設、体制が整っていること**。
 - ① **建物の耐震化、無停電化、通信や水の確保等**により、災害時においても業務実施可能な施設となっていること
 - ② 災害時の支援活動に必要なスペースとして、**2500m²以上の駐車場**を備えていること
 - ③ **BCP（業務継続計画）**が策定されていること

◆道の駅「あいの土山」の再整備について

道の駅「あいの土山」は、昭和56年に「土山町自然休養村管理センター」として建設され、平成5年に県内初の道の駅として登録されました。今日に至るまで地域振興の拠点として多くの人に利用されてきましたが、建築から40年以上が経過し、建物の老朽化や利用者ニーズへの対応に課題を抱えていることから、これまで以上に地域活性化の基点として、また、防災機能を備えた道の駅とするため、令和7年のリニューアルオープンを目指し、現在再整備の準備を進めています。

- ・ 大規模災害や局地的な災害時には、主要幹線である国道1号や新名神高速道路が通行不能となることが予測されることから、道路利用者の一時的な避難場所として、情報収集等が行えるよう非常電源や通信、飲料水の確保等、防災機能を強化します。
- ・ 田村神社のご協力により、本施設に隣接する駐車場の利用も可能であることから、広域的な災害支援拠点としての活用も行います。
- ・ 本施設の再整備にあたり、「防災道の駅」の認定を目指しています。

